

小児整形外科

1. スタッフ

学内教授 吉川 一郎
 助 教 渡邊 英明 (兼務)
 大学院生 雨宮 昌栄 (兼務)

2. 診療科の特徴

小児の脊椎、骨、関節、筋その他の運動器に生じる疾患や外傷に対する診療を行なっている。

以下に主な対象疾患を挙げる。

脊椎および脊髄疾患 (腰痛症、椎間板ヘルニア、脊椎分離症すべり症、脊柱側弯症、後弯症、先天性側弯症、二分脊椎など)、斜頸、Sprengel変形、多合指症、野球肘、股関節疾患 (先天性股関節脱臼、ペルテス病、大腿骨頭すべり症など)、膝関節疾患 (Blount病を含むO脚・X脚変形、離断性骨軟骨炎、円板状半月など)、足部疾患 (先天性内反足、麻痺性足部変形など)、多発性関節拘縮症、骨系統疾患、骨代謝疾患 (くる病など)、骨関節感染症などである。

1) 脊椎疾患

小児整形外科では、小児脊椎疾患、なかでも脊柱側弯症 (Scoliosis) の治療に最も力を注いでいる。平成20年側弯症手術例は14例である。術後経過も変形矯正も良好である。

また幼児期側弯 (Early onset scoliosis) に対しても積極的に全身麻酔下にギブス矯正治療をおこない、その後の装具治療につなげている。積極的にgrowing rodなどの高度な手術治療も取り入れていく計画ではある。しかし、保存療法でも治癒する症例があることより保存療法にも全力で取り組んでいる。

2) 足部疾患、股関節疾患

吉川、渡邊は、これまでと同じく先天性内反足、麻痺性足部変形の診断と治療を専門の一つとしており、その診断と治療を積極的におこなっている。その手術成績を日本小児整形外科学会でもたびたび発表した。

雨宮は先天性股関節脱臼とペルテス病を主とした股関節疾患の診断と治療を専門としており、ペルテス病の外来治療の成績を第19回小児整形外科学会で発表した。現在は、ペルテス病病態の解明を目的とした基礎研究に取り組んでいるために外来診療は4月より休診している。

また、毎週月曜夕方、一週間ごとに外来および入院症例のケースカンファランスを行っている。適宜、小児科および放射線科のスタッフとケースカンファランスも設けている。

(外来担当医師)

吉川 一郎 (学内教授) : 脊椎外科、小児足部疾患、
 小児整形全般
 渡邊 英明 (助教) : 脊椎外科、小児足部疾患、
 小児整形全般
 雨宮 昌栄 (大学院生) : 小児股関節疾患、
 小児整形全般

(手術件数) 平成20年小児整形外科手術

(内訳)

側弯症手術	14件
内反足手術	7件
先天性股関節脱臼	3件
脳性麻痺手術	2件
大腿骨頭すべり症 (ピンニング)	1件
化膿性関節炎	1件
骨折手術	3件
骨・軟部腫瘍	3件
他の足部手術	1件
膝手術	1件
多指 (趾) 症・合指 (趾) 症	2件
骨内異物除去術	4件
ばね指など	3件
計	49件

(化学療法症例) なし

(放射線療法例) なし

3. 診療実績

新来患者・再来患者数・紹介率

新来患者数	57人
再来患者数	734人
紹介率	88.8%

4. 総括と来年の目標

子ども医療センターで、月曜日午後と木曜日午前中に外来診療を行っている。また、月2回の二分脊椎外来も子ども医療センター各科と連携して行っている。紹介外来患者も少しずつ増加してきている。今年も、安全かつより良い変形矯正が得られる脊柱側弯手術をひとつひとつ確実にこなって高度医療機関としての役目を果たすこと、また、これまで同様に先天性内反足や麻痺性足部疾患など専門性の高い疾患の治療を継続していくことを目標に考えている。